

2011 年度事業計画

2011 年 3 月 28 日

学校法人 金城学院

目 次

はじめに	1
《資料》金城学院中期計画（2009年度～2014年度）	
I 2011年度事業計画の策定にあたって	3
II 金城学院大学の事業計画	4
1 使命・目的	
2 教育支援	
3 学生の受け入れ	
4 学生生活	
5 キャリア支援	
6 教育・研究環境	
7 国際交流	
8 社会貢献・地域奉仕	
9 管理運営	
《資料》金城学院大学の将来構想概要	
III 金城学院高等学校及び金城学院中学校の事業計画	8
1 教育力の向上	
2 キリスト教教育の推進	
3 国際教育の充実	
4 生徒支援体制の充実	
5 健全財政の維持	
6 施設設備の充実	
7 組織運営機能の向上	
《資料》金城学院高等学校及び金城学院中学校の将来構想概要	
IV 金城学院幼稚園の事業計画	11
1 保育活動の充実	
2 保護者等との連携	
3 預かり保育（教育課程にかかわる教育時間終了後の教育活動）、子育て支援など	
4 環境整備	
5 関係団体・地域等との連携と広報活動	
6 幼稚園設立40周年に向けて	
《資料》金城学院幼稚園の将来構想概要	
V 法人部門の事業計画	13
1 財務状況の改善	
2 ガバナンスの確立	
3 人材の育成	
VI 予算概要	14
1 予算編成方針	
2 主な事業別予算	

はじめに

創立者であるアニー・E・ランドルフ女史とその協力者であったR・E・マカルピン宣教師をはじめ、福音主義キリスト教に基づく教育に心血を注ぎ、戦前戦後の苦難の時代を乗り越え、現在に至る金城学院の発展を築いてきた先人たちの労苦を見つめるとき、あらためて生徒・学生に対する「思い」や「愛情」が結果として金城学院を大きく育てたことを知る。金城学院創立120周年を迎えた2009年度に、金城学院として今後6年間の中期計画（後掲参照）を発表し、原点に立ち返るとともに、その深化として「金城学院建学の精神のリバイバル」を基本方針とした。それは、建学の精神に込められた金城学院の社会的責任を果たすことが、ブランド資産を向上させ、優秀な人材（学生・生徒・園児・教職員）の確保と教育力の強化にもつながる。具体的にいえば「キリスト教主義による人格教育の強化」「金城学院の建学の精神を生かした女子教育のさらなる推進」「より具体性を伴った国際理解の充実」を3本柱と考え、その実現のために、中期計画及び事業計画に基づきPDCAを徹底し、健全財政の維持、有能な教職員の確保と育成に努め、地域社会との共生に配慮しつつ、教育施設設備の整備を行うことである。

今日は厳しい時代ではあるが、金城学院は長き伝統をもっており、その伝統とは絶えざる改革の連続でなければならないといえる。このために、金城学院全体の組織・機構について客観的な評価を実施して、法人運営を将来にわたって強固なものにするとともに、時に応じて金城学院の枠組みを超えて、他組織、他団体等との提携・共同事業等も調査研究し、今後の予測しがたい社会の変化に対応するように備えなければならない。

なお、2011年度は、2009年度に策定した中期計画の前半の最後にあたる年度であるので、基本的には2010年度の取組みを踏襲して次のことを事業方針として掲げる。

(1) 教育の充実

激しく変容する国際社会に対応できる女性を輩出すべく、キリスト教主義教育に基づく広い教養と専門性を兼ね備えることを目的とした女性教育を推進する。

(2) 研究の充実

各校の人的資源を有効に活用し、産学官連携の研究活動をはじめ、各校の教育につながる研究活動の推進を図る。

(3) 学生、生徒等支援体制の充実

学生、生徒及び園児に対する修学上の支援策を積極的に推し進める。

(4) 地域及び社会への貢献

地域及び社会への貢献策を検討し、地域や社会とともに成長する学院づくりを目指す。

(5) 同窓会との連携の強化

同窓会（金城学院みどり野会等）の活動を支援し、相互の協力関係を強化する。

(6) 学校法人の組織力・経営力強化

経営主体たる法人の役割と位置づけを明確にし、学校法人の組織力・経営力を強化する。

《資料》金城学院中期計画（2009年度～2014年度）

【通】：通期目標、【前】：前期目標、【後】：後期目標

全人教育の強化 キリスト教主義による	校内礼拝の励行と地域教会との関係強化	礼拝の魅力化 【通】 近隣教会への出席の推奨 【通】 キリスト教関係施設による地域貢献のあり方の調査・研究 【前】
	キリスト教教育の再構築	関係諸団体・組織との連携の強化 【通】 宗教教育の体制整備と陣容の確保 【前】 宗教主事の機能・機構の見直し 【前】
	ボランティア活動の活発化	ボランティア活動の推奨、指導 【通】 ボランティア活動の単位認定の研究 【前】
女性教育の推進 学院の建学の精神を活かした	教育力の向上	教養教育の徹底 【通】 女性専門教育の充実 【通】 教育のグローバル化・英語教育の徹底 【通】 魅力的な学部・学科の編成 【通】 中・高・大連携の推進 【通】 教育評価制度の確立と運用 【前】
	施設・設備の充実・整備	エコ・環境に配慮したキャンパスづくり 【通】 キャンパス美化 【通】 キャンパスの保安体制の確立 【通】 中・高キャンパスの整備 【前】 教育用設備の整備 【前】
たより国際理解の充実 より具体性を伴った	海外関係校との関係強化	教員の共同研究の促進 【通】 留学生の派遣の促進 【通】 留学生の受入れ態勢の整備と受入れ推進 【前】
	留学生との交流促進	国際交流センターの体制強化 【前】 交流の場づくり 【後】
健全経営の維持	的確な財政検証・予測と資金計画	各校・園の規模最適化の研究 【通】 外部資金・寄付金の導入と活用 【通】 資金の有効活用 【通】 予算精度の向上と弾力的運用 【前】 部門別採算制の実施 【前】

健全経営の維持	組織力の向上	組織運営の合理化と責任体制の明確化 【通】 業務管理の効率化 【通】 人事・労務管理の適正化と人材の育成 【前】
	入学・入園者の確保と退学者の防止	広報・宣伝体制の整備 【通】 募集業務の徹底 【通】 在校生相談・指導窓口の充実 【前】
地域社会との共生	環境共生モデル地区の造成	里山と大学キャンパスの共存 【前】 八竜地区の活用 【後】
	キャンパスの地域への開放	ランドルフ記念講堂ほか、施設・設備の利用法の見直し 【前】 見せる施設・利用できる施設の活用 【後】
	人財の派遣・提供	社会人教育・生涯教育などの諸提携・協力実態の調査・検討 【通】 地域ボランティア活動への参画 【通】 ファッション工房の立上げ・サテライト設置構想の調査・研究 【前】

I 事業計画の策定にあたって

私学を取り巻く社会環境は、少子高齢化の進行、学校間競争の激化、長期にわたる経済不況など近年大きく変化し、数々の深刻な課題を金城学院はかかえている。ステークホルダーを含めた社会が求める教育ニーズは更に多様化・高度化し、それに伴って様々な教育制度の改革を推進することは、金城学院にとって急務であるといえる。

大学では、社会の多様なニーズに迅速に対応すべく、2010年度に生活環境学部生活環境情報学科を生活マネジメント学科に、また現代文化学部福祉社会学科をコミュニティ福祉学科に名称変更するとともに、新たな学部・学科として、人間科学部多元心理学科を2011年度に設置する認可を受け、国際情報学部国際情報学科と人間科学部コミュニティ福祉学科を2012年度に設置すべく申請準備を進めてきた。一方で、教育研究の質の低下を招かぬよう、教育研究の改善努力により質の確保のための保証システムを構築してきた。

中学校・高等学校においては、授業日数及び数学、理科、外国語の授業時数の増加を主眼とした新学習指導要領に対応して、教育内容等の改編を推し進めてきた。

幼稚園においては、将来計画で掲げた未就園児保育についての検討を継続し、2010年度3学期には試行的に入園前幼児を受け入れ4日間保育を行った。

法人部門としては、金城学院120周年・金城学院大学60周年記念事業の一環として

2009年度に計画された、後援会設立又は寄付金募集等に取り組むとともに、金城学院ブランド戦略に基づく広報を展開し充実させてきた。

金城学院は、これらさまざまな社会の要請と変化に対して迅速かつ適切に対応ができるよう、各校すなわち幼児教育から大学教育に至る全ての段階で、不可分である教学及び経営の改革を進めることが重要であると考えている。

II 金城学院大学の事業計画

18歳人口の減少にともない、大学を取り巻く状況は非常に厳しくなっているが、大学では、「強く、優しく。」を教育スローガンに掲げ、知的に鍛えられた強さと優しさを兼ね備えた品格ある女性の育成を目指す。

具体的には、2011年度も大学の将来構想（後掲参照）に基づき、以下の事業を計画し、遂行する。

1 使命・目的

(1) キリスト教に関する諸行事の魅力化

キリスト教に関する諸行事を、学生が積極的に参加できるよう工夫する。

(2) 教育組織の見直し

本学の使命・目的に基づき、現代社会が求める人材を育成するため、教育組織の見直しを行う。

(3) 学科固有の目標に即した職業人の育成

人材育成に関する数値目標達成のための方策を学科ごとに明確にする。

2 教育支援

(1) 共通教育科目の運営及び運営機関の検討

2011年度から新カリキュラムが施行されるが、遺漏なく実施できるようにする。
また、今後の共通教育科目運営を適切に運営するための機関を検討する。

(2) 卒業要件単位数の見直し

現行の卒業要件単位数の見直しを行う。

(3) 学習活動支援センターの設置

学生の学習活動を積極的に支援するため、センターの設置を検討する。

(4) 初年次教育の検討

本学における初年次教育のあり方について検討する。

(5) 1クラス当たりの履修者数の下限設定

履修者の下限人数について検討する。

- (6) イングリッシュ・라운ジの充実
言語センター所属の外国人教員と学生が気軽に英語でコミュニケーションできる企画を検討し、運営する。
- (7) 英語を不得意とする学生への対処方法の検討
英語を不得意とする学生への対処方法の検討をする。
- (8) TOEIC の受験者の促進
TOEIC の受験者を増加させるための方策を検討する。
- (9) 英語以外の外国語に対する関心の喚起
英語以外の外国語に関心を持たせるための方策を検討する。

3 学生の受け入れ

- (1) アドミッションポリシーの見直し
アドミッションポリシーの妥当性を再検証する。
- (2) 質の高い学生の受け入れ
アドミッションポリシーに沿った学生を受け入れるための方策を検討する。併せて中期的な学生募集計画を作成する。

4 学生生活

- (1) 学生のマナー向上
マナー向上について今年度も引き続きキャンペーン等活動を行う。
- (2) 諸活動への学生の積極的参加
クラブ活動をはじめ、ピアサポート、金城里山コンサベーション(KSC)などに学生が積極的に参加するよう支援する。
- (3) 保健センターと学生相談室における対応強化
常勤カウンセラーの設置等を検討し、より一層連携して対応が出来るようにする。
- (4) 緊急時の連絡方法等の整備
緊急時に連絡が出来る機器等の整備を検討する。また、緊急メールが機能するよう学生への広報を徹底する。

5 キャリア支援

- (1) 具体的な就職活動支援
アドバイザー、キャリア支援センター、キャリアールが連携して就職支援が出来るように整備する。
- (2) 低学年生のキャリア支援
「キャリア開発」等授業との連携を強め、学生が希望する職業に就職できる支援策を検討し、実施する。

- (3) 日経おもしろ読み方講座の開設
キャリア支援の1つとして経済・社会を読み解く講座を開設する。
- (4) 人材育成手法の検討
現代文化学部を先行事例とし、過去の輩出者をロールモデルとした人材育成手法の検討をする。

6 教育・研究環境

- (1) 自己点検・評価体制の見直し
2014年度に第三者評価を受けるための準備を進め、新たに出された大学基準協会のガイドラインに基づく体制の見直しを行なう。
- (2) FD活動の推進
各学部、学科で行われているFD活動を支援する。
- (3) 研究活動の活性化
研究活動を活発にする。
- (4) コンピュータ教室のリプレース
現行のコンピュータ教室の内、老朽化したコンピュータのリプレースを行なうとともに利便性を向上させる。
- (5) 新統合基盤システムのリプレース
現行の新統合基盤システムが老朽化したことに伴い、リプレースを行なうとともに利便性を向上させる。
- (6) 図書費配分方法の見直し
学部再編もあるので、現行の配分方法でよいのかを含め検討する。
- (7) 図書館新生ガイダンスの見直し
新生ガイダンスの方法を見直す。
- (8) 森の中の大学構想の推進
引き続き、金城里山コンサベーション(KSC)の活動を支援するとともに、里山維持活動について、効果的な方法を検討する。

7 国際交流

- (1) 全学的な国際交流推進のための方針検討
本学の国際交流に関する課題の整理と、各学部の特徴等を生かした国際交流の方策について検討する。
- (2) 留学関連科目の充実
コマ数等の見直しを検討する。また、各学科専門教育科目への留学生受け入れの可能性について検討する。

- (3) 語学研修プログラムの見直し
現行プログラムについて見直しを行なう。

8 社会貢献・地域奉仕

- (1) ファッション工房の支援
ファッション工房の活動が地域に密着したものとなるよう支援する。
- (2) 地域との交流
地域の自治会等と話し合いを進めつつ、地域を対象にした活動に取り組む。

9 管理運営

- (1) 危機管理規程の整備
緊急時の対応、連絡体制、不測の事態の未然防止方策等を整備する。
- (2) 固定経費の見直し
諸費用の費用対効果の検討を行う。
- (3) 実務助手との協働
より円滑に業務遂行できるよう、事務職員と実務助手の協働のあり方を検討する。
- (4) 事務職員配置の適正数の見直し
事務職員の配置基準の見直しを検討する。
- (5) SD活動の推進
総合的な事務職員の育成計画を検討する。

《資料》金城学院大学の将来構想概要（2009年度～2014年度）

- 1 「キリスト教主義のもと120年の伝統を有する女子大学」にふさわしく、学生を知的に鍛え「強く優しい」女性を社会に輩出する。
 - (1) 建学の精神である女子教育の理想を21世紀に相応しく具体化する。
 - (2) キリスト教主義大学としての魅力を、全教職員の力で学生に示す。
 - (3) 「強く、優しく。」ということばを大切に、卒業生の伝統を受け継ぎ、ブランド・イメージの構築をはかる。
- 2 本学は教育力で勝負し、他大学からの差別化をはかる。
 - (1) 本学の基本的なスタンスは、「キャリア形成」として教育力を発揮することにある。
 - (2) 学生が学びたくなる/学ばざるをえなくなる教育・学習システムを構築する。
 - (3) 「マナーの金城ルネッサンス」をはかり、洗練されたマナーを持つ学生を育てる。
- 3 既存の学部学科の「改組」により、本学の新しい魅力を打ち出し、新たな受験層を獲得する。
 - (1) わかりやすい学科学部名称、魅力的なカリキュラムと資格課程、職業に結びつくプログラムで専門教育の充実をはかる。
 - (2) 「総合計画」を作成し、その柔軟な運用で大学「改組」を継続的に推進する。
- 4 教育目的に見合った美しい教室と校舎を整備するとともに、キャンパス・アメニティの充実をはかる。

- (1) 美しい校舎とキャンパスの整備を図る。
- (2) 教育目的に見合う施設・設備を充実する。
- (3) キャンパス・アメニティを充実し、「金城生活」の満足度を高める。
- 5 国際交流を進める。
 - (1) 留学生の受け入れと送り出しの中期的な目標の設定をする。
 - (2) 短期の語学研修とは別に、学科の専門を基礎とする海外研修を推進する。
- 6 社会貢献・地域奉仕を進める。
 - (1) 企業からの委託研究、企業との共同研究などが着実に増えつつある。規程等の条件整備を進め、研究面での社会貢献を推進して行く。
 - (2) ファッション工房を支援する。
 - (3) 地域の自治会等と話し合いを進めつつ、地域を対象にした活動に取り組む。
- 7 魅力的な教職員として成長を続ける。
 - (1) 教員の研究環境を整え、FDを充実する。
 - (2) 事務職員の教育機能を評価し、SDを充実する。

Ⅲ 金城学院高等学校及び金城学院中学校の事業計画

2010年度私立高校入試では、公立高校の無償化の影響もあって、私学への進学者が減り愛知県下では全体で2,300名以上の欠員という結果となった。経済事情もあり私学を取り巻く環境はますます困難な状況にある。そのような中、金城学院中学校では、受験者の大幅増もあり2011年度入学生の定員を確保することができた。与えられた入学生を中学校入学から高等学校卒業まで中高一貫教育のもと、人間は神のかたちに似せて作られた存在であるという聖書の宣言に基づき、神を畏れる知恵と、キリストにある尊厳・品位を有し国際感覚を持ったピースメーカーとしての女性、及び「自立・自律・連帯」できる女性の育成を目指す。

2011年度も引き続き「生徒を伸ばす」ことに軸足を置いた教育改革を目指す。「担任力」向上に取り組むと同時に、「クラス経営力」をベースとした「生徒指導力」「進路指導力」を向上させ、「自立・自律・連帯」支援型教育システムの構築を行う。

1 教育力の向上

(1) カリキュラムマネジメントの推進

確実に新学習指導要領に対応させる。カリキュラムマネジメントによる教育の展開と授業改善を進める。

(2) 中高一貫教育の推進

“Dignity”を柱とした中高一貫教育による総合力を育成する。

(3) 外国語による授業の実施の可能性の検討

(4) 中高大連携の推進

中高大教育協議会等を通じて中高大連携を強化する。

2 キリスト教教育の推進

(1) 中学校・高等学校のキリスト教教育の原則

福音主義キリスト教教育に基づく本校は、聖書が示す真理を教育の基礎に以下の2点を原則とする。

① キリストを真の師と仰ぐ

キリスト教教育を志す本校は、その教師像を主イエス・キリストに求める。

② 使命に生きる女性を育成する

「自立・自律・連帯」を身につけ、自らの使命を果たす女性を育てる。

(2) 金城スピリットの継承

金城スピリット “Dignity (品位、尊厳) をもって、「今」を生きる” を継承する女性を育てる。

(3) 学校礼拝の励行

現状を維持し継続的に見直す。近隣教会への出席を勧める。

(4) キリスト教教育のさらなる充実

関係諸団体・組織との連携及び維持を図る。中高一貫教育におけるキリスト教教育の意義を高める。

(5) ボランティア活動の推進

社会奉仕の精神を醸成する。

3 国際教育の充実

(1) アメリカ及び国内の語学研修の充実と継続的な見直し

(2) 海外提携校との関係の継続とプログラム内容の検証・充実

オーストラリア提携校のあり方を見直す。韓国姉妹校との関係を継続させる。

(3) 外国人による外国語授業の実施

外国人英語特別講師等による外国語教育を充実する。

4 生徒支援体制の充実

(1) 生徒の心のケア体制の向上

常勤・非常勤のスクールカウンセラー配置と相談室常設、相談室と教員の連携強化、及び有資格教員である生徒支援担当教員の校内・外部調整による生徒の置かれている環境に対するケアの評価を基に一層の強化を図る。

- (2) 中学校における進路指導体制の充実
中学校3年生からの進路選択力を向上させる。保護者への丁寧な説明を行い、理解を得る。

5 健全財政の維持

- (1) 中高規模の最適化の研究
8クラス体制が始まる2012年度以降の財政・人事を含めた、運営上の適正化を検討する。
- (2) 予算精度の向上
効率的・効果的予算運用のあり方を検討する。
- (3) 独立採算責任制の検討
高等学校及び中学校の独立採算責任制のあり方を検討する。
- (4) 効果的広報・募集活動の推進
これまでの広報と募集活動を点検し、より効果的なものとなるよう企画実施する。

6 組織運営機能の向上

- (1) 組織運営の合理化の追求
運営の適正規模を検討する。責任体制を明確にする。人事・労務管理の適正化を図る。
- (2) 事務局機能の向上
組織的事務局への向上・改善を図る。人材を育成する。

《資料》金城学院高等学校及び金城学院中学校の将来構想概要

(2008年度～2012年度)

- 1 女子教育の推進
- (1) 教育力の向上
中高大連携の推進：中高大教育協議会への協力、中高連携の一層の推進“Dignity”を柱にして（自立・自律・連帯）、中高の学科選択性の促進、クラスサイズダウンの検討
- (2) 施設設備の充実・整備
環境に配慮したキャンパス整備、校内美化の推進、校内生活・教育の充実のための施設の整備、安全・安心の確保
- 2 キリスト教主義による教育
- (1) 校内礼拝の励行
現行の維持と常の見直し、近隣教会への出席の勧め
- (2) キリスト教教育の再構築
関係団体・組織との連携・維持、中高一貫の更なる検討・実施
- (3) ボランティア活動指導・推進
一層の指導・推進
- 3 国際交流の充実
- (1) 海外提携校との関係強化
語学研修の常の見直しと充実（アメリカ、国内）、オーストラリア提携校の関係継続、韓国姉妹校

との関係継続

(2) 外国人による授業実施

中高における英語教育のあり方構築、外国人英語講師の採用

4 健全財政の維持

(1) 中高規模の最適化の研究

運営の適正規模の研究、組織運営の合理化と責任体制の明確化、人事・労務管理の適正化と人材育成、事務管理の効率化

(2) 独立採算責任制の実施

予算精度向上のための事業計画立案、決済（決裁）制度のあり方構築、予算の弾力的運用のあり方検討

(3) 入学生徒確保と退学防止

企画広報の体制整備、募集業務の徹底、外部資金導入方途の検討

IV 金城学院幼稚園の事業計画

幼稚園は、キリスト教をバックボーンとした一人ひとりを大切に思う幼児教育に徹し、「愛され、育ち合う」を保育目標としている。

2011年度は、聖書の言葉「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。」（コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章 18節）から「信じる・・・見えないものに目を注ぐ」という方針の下、主題として次の4点を掲げる。

(1) 家族、保育者、友達の愛情を受け、安心してその子らしく成長できるように援助する。

(2) 愛され育つ中で、神と人とを愛し尊ぶ心を養う。

(3) 自分の持てる力を発揮し、色々なことに挑んでいけるように援助し見守る。

(4) 互いの違いを認め合い、思いやりながら生活できるように導く。

また、2012年度に幼稚園設立40周年を迎えることから、今までの保育を振り返り、園舎園庭の修繕や改良などの具体案を検討していく。

1 保育活動の充実

自由活動とクラス活動・年齢別活動を連携させ、子どもたちが心身を解放して遊び、そのことを通して仲間と出会ったり、創意工夫する力を身につけるように導く。

2 保護者等との連携

(1) 保護者の保育参加などの機会を設け、開かれた幼稚園としての機能を果たす。またその度にアンケートをとり幼稚園評価に活かす。

(2) 現行の個人懇談会や降園時30分間の担任懇談に加え、必要に応じて園長との個

別懇談を行い子育て支援の一端とする。

- (3) 保護者の子育て相談の場を提供し、クラス別や全体でのおしゃべり会を行い、園長が参加する。

3 預かり保育（教育課程にかかわる教育時間終了後の教育活動）、子育て支援など

- (1) 園児、卒園児対象に造形活動、ハンドベル活動を継続拡大し、預かり保育を充実させる。
- (2) 子育て支援として2010年度3学期に試行した未就園児保育（在園児の弟妹のみ対象）の更なる拡大と充実を図る。
- (3) 現行の保育後園庭開放を、近隣の未就園児や入園予定児にも参加を呼び掛ける。

4 環境整備

- (1) 子どもたちが更に遊びを充実させられる魅力的な園庭づくりを目指し、園内研修を計画する。
- (2) 卒園児、在園児親子などにより行っている「園庭ワーク」を継続し、安全で想像力を育む遊び場を作る。また「ともに生きていく自然」として、環境理解への導きを行う。
- (3) 保育者自ら、園内美化に努め、その姿から子どもたちが学べるように心がける。

5 関係団体・地域等との連携と広報活動

- (1) 現代子ども学科の実習生受け入れに留まらず、関係学科の学生に対する自主実習やゼミ学生の受け入れを図り、身近な実践機関としての協力と連携を強化する。
- (2) 職場体験学習に協力し、中学生又は高校生を受け入れる。
- (3) 保育学会、キリスト教保育連盟などへの会場提供や発表、執筆を通し、広報活動を行うとともに関係機関への貢献に繋げる。
- (4) 地域住民に行事参加を呼び掛け、交流の機会を持つ。
- (5) 見学会や説明会を実施するなど、幼稚園広報を充実させる。
- (6) ホームページの充実・更新を図る。

6 幼稚園設立40周年の準備

- (1) 記念礼拝、記念行事など記念事業の計画と予算申請
- (2) 記念誌発行（2013年3月発行予定）に向けて、原稿内容の決定と園生活の写真撮影業者依頼
- (3) 同窓会（2002年度卒園生～2011年度卒園生）案内
- (4) 他幼稚園の見学と研修
- (5) 未就園児保育の充実と拡大
- (6) 中期ビジョン策定の検討

《資料》金城学院幼稚園の将来構想概要（2009年度～2014年度）

1 預かり保育の実施

園児と小学生を対象に園の保育方針に沿った内容で「預かり保育＝教育課程に関わる教育的時間の終了後に行う教育的活動」として、造形教室・ハンドベルクワイアの二つの活動を行ない、その他についても内容を吟味・検討しつつ取り組んでいく。

2 施設及び園庭の貸し出し

現在、保育後30分間の園庭開放を行っているが、今後、地域を対象に必要なに応じて実施していく。

3 0、1、2、3歳児への親子教室開催

子育て支援活動として、兄弟関係の希望者を対象に行っていく。

4 満3歳児保育（兄弟関係の希望者対象）

現在は入園希望者を対象にして「見学」の形で行っており、入園決定者にはその後3回程度、親子の保育体験と保育方針についての説明会を行っているが、今後、対象者を広げて「子育て支援」としての実施を考えていく。

5 保育学会及び外部団体に対する貢献を通し、広報活動の展開

幼稚園の使命を自覚して、広報活動を通して連携・連帯を求めていく。

6 環境整備の充実

実のなる木々が生え小鳥や昆虫などの生息しやすい環境が整っている園庭及び周辺の雑木林を、ロープ遊具や築山、子どもたちの遊び場づくりなど、安全で創造力を豊かに育む場として整備する。

V 法人部門の事業計画

金城学院大学、金城学院高等学校、金城学院中学校及び金城学院幼稚園が行う様々な事業を、円滑かつ健全に運営するために法人部門が担う役割は極めて重要である。変化が激しい社会環境や多様化するニーズに応えることができる学校法人であるために、絶え間ない組織・経営改革を推進することを、法人部門は求められているからである。

このような認識と使命の下、学校法人金城学院の中期計画及び事業方針に基づく法人部門の2011年度事業計画としては、次の3点を掲げる。

1 財務状況の改善

財務状態の安定と経営基盤の強化のため、各校における学生・生徒募集力の強化、学生・生徒満足度の向上を図り、主たる収入としての学生生徒等納付金を安定的に確保する。また外部資金として、補助金、寄付金、事業収入及び資産運用収入等の増加を目指す。

2 ガバナンスの確立

中期計画及びそれに基づく各年度の事業計画を達成するために、将来計画や事業計画

を全教職員に明らかにし、計画に沿った運営を先導する。また、明確な執行責任の下で統治機能を十分に発揮できるよう規程等を整備し、学内外に対する説明責任を果たすことで透明性を確保する。

3 人材の育成

安定した経営基盤を築くために、明確な事業戦略とともに人事戦略を立案し、教職員という人的な経営資源を十分に活用する。人材育成のシステムを多面的に検討し、長期的視野をもって人材育成・開発していく。

VI 予算概要

1 予算編成方針

2011年度予算編成は、創立記念式典で発表した中期計画（2009年～2014年）の実現を目指しながら、財政の安定に留意したものとする。

具体的には、以下の編成方針に基づき、予算の採択は、必要かつ妥当と判断された計画に沿っての裁定を原則とする。

(1) 収入関連

学生生徒納付金収入は、各校とも対入学者定員100%、退学・休学想定率2%とする。

補助金収入は、前年度実績の90%もしくは最低補償額を見込む。

その他の収入等は、不確定要素について、例年通り織り込まない。

(2) 支出関連

継続経費は、綿密に見直し、「2008年度規模に対して20%削減」を目指す。

中期計画など上位施策との整合性や年次補修など、緊急性を十分検討し予算化する。

(3) 帰属収支

帰属収支差額比率10%の確保を目指す。

2 主な事業別予算

予算編成方針に基づき、2011年度の主な事業に対する予算を次のとおり計画した。

(単位：千円)

分類	主な事業内容	予算額
大学校地整備	ナラ枯れに伴う防除作業 竹伐採及び植栽 など	26,765
修繕事業 (大学)	講義室及び演習室等改修・再配置計画 空調設備更新 トイレ改修 各校舎緊急通報システム導入 など	217,609

修繕事業 (高等学校)	みどり野館改修 希望館第3AV教室改修 栄光館屋上防水改修	59,582
修繕事業 (中学校)	クラブハウス屋根改修 体育館プール濾過機更新 体育館プール塗装改修 など	23,950
修繕事業 (幼稚園)	保育室可動間仕切り更新 園庭補修 など	4,421
広報戦略事業	新聞広告掲載 鉄道額面ポスター掲出 など	81,870
I T 関連事業	学生情報システム再構築 マルチメディアセンターPC及びソフトウェアの リプレイス 事務用ファイルサーバ増強 中高大広域ネットワーク機器リプレイス など	256,568
研究推進事業	オープンリサーチセンター など	17,300
その他	教員実験室整備費用 など	336,023
合計		1,024,088